

平成 30 年度南予地方局予算の実施状況 (H31. 3. 31 現在)

- 1 予算事項名 南予地域シカ肉品質向上推進事業費
- 2 事業期間 平成 29 年度～30 年度
- 3 所 管 産業経済部産業振興課
- 4 事業概要

宇和島圏域では、シカによる農作物被害が深刻であるため捕獲体制を強化している。このような中、シカ肉の活用が期待されるが、品質確保等が課題となっている。

このため、本事業の実施により「捕獲」「獣肉処理」「消費拡大」の好循環を実現し、被害の低減と高品質シカ肉の活用を図り、南予地域の活性化につなげる。

	平成 30 年度
予算額	892 千円

5 30 年度の事業実施状況

(1) 「くくりわな」捕獲センサーの実証

① 実証

平成30年6月に松野町内にて、機器の動作及び電波の到達状況を確認し、この結果を踏まえ、7月1日～12月31日の6か月間実証を行った。



くくりわなに連結した「センサー」が捕獲を検知し親機へ



「親機」を通じ捕獲情報をクラウドサーバーへ

スマホ等で「メール」を受信(狩猟者・処理施設・行政等で共有)

②捕獲実績

捕獲実績は、ニホンジカが 18 頭であり、うち 5 頭は肉処理することができた。

捕獲センサーにより捕獲時間・場所が把握でき、捕獲・処理の迅速化・効率化につながることが確認された。



捕獲センサーによる捕獲

(2) 「くくりわな」捕獲センサー実証検討会の開催

6月1日、昨年度の実績を踏まえた今後の取り組みを検討し、10月4日には中間検討会を開催し関係者で情報共有等を行った。

(3) 「南予地域シカ捕獲・活用促進検討会」の開催

10月9日、宇和島地区鳥獣害防止対策推進協議会を地方局で開催し、会員・関係者 21 人が出席。今年度の事業計画、実証状況等について、意見交換を行った。

(4) 「南予地域シカ捕獲・活用促進研修会」の開催

ニホンジカの生態や効率的な捕獲方法等の情報を共有し、今後の活動の参考とするため、1月29日、関係機関職員や猟友会会員51人が出席し、地方局で研修会を開催した。

当日は、(株)野生鳥獣対策連携センター専務取締役阿部豪氏による「シカの生態と地域で取り組む被害防止対策」と題した講演会を行うとともに、「くくりわな」捕獲センサー機器について、メーカーによる室内展示を行い、取組みを広く周知することができた。



阿部講師による講演



センサー機器の室内展示

(5) 肉質分析方法等の検討

県産業技術研究所と連携し、センサーにより捕獲したシカ生肉について、「硬さ」と「色」を測定し、一般で捕獲したシカと比較を行った。

肉の硬さについては、数値上は大きな差ではないが、一般で捕獲した肉と比較して数値が低く、柔らかいことを確認。

(6) 「くくりわな」捕獲センサー実証実績検討会

3月8日、関係者により今年度の実証結果の検証を行った。

捕獲センサーを活用することで、捕獲時間・場所が把握でき、捕獲・処理の迅速化・効率化につながる事が確認された。

シカ肉の品質については、個体差や条件によって検証が難しいが、発見から止め刺しまでの時間が短いため、肉処理については7%の向上が期待される。